

BUG

〒601-8036 京都市南区東九条松田町 62

NPO 法人日本自立生活センター
「ワークス共同作業所」

TEL (075) 682-3201 FAX (075) 682-3330

<http://www.mediawars.ne.jp/~saba>

Eメール: saba@mediawars.ne.jp

2011年3月3日 第1刷 第54号

編集責任者 大崎雅彦

1月11日 恒例の新年会を行いました

河野さつき

NHK歳末たすけあい義援金を使って、今月11日に新年会が行われました。

新年会の参加メンバーは30人ぐらいでした。お寿司とオードブルを頼みました。

部屋のあちこちからいろんな話が飛び交っていて、みんなとても楽しそうに笑っていたのが印象的でした。

社会福祉法人 京都府共同募金会様、貴重な義援金を下さり、職員・所員一同大変喜んでおります。ありがとうございました。

新年会の前に来年度の新制度移行についての説明とワークスをどうしていきたいか意見を所員1人ずつ聞いてお開きになりました。



今年もよろしくお願ひします

2011年1月のほていまつり

年初めのほていまつりで、いつもの用に店を出し、綿菓子、カレンダー、小豆、パン、今年からジャムを売り始めました。日が照っている所は、暖かく日陰に入ると寒くて、我慢をしている時がありました。綿菓子は、4種類出来る用に並べて売っていました所、団体のお客の一人が、「綿菓子の売れ行きはどうですか?」と言われたとたん。「1つマンゴ味の綿菓子をください」と言われ、作ってい



る中に名刺を貰って観ると、ハニーと少し大きく書かれ、少し下にと取締役工場長と書かれていたので、色ざらめのお偉いさんが、来てくださいましたと皆で驚きました。いつも、綿菓子を作っているざらめと色ざらめの砂糖を使わせて貰っていると、思うと感動と驚きです。

椿森 信幸

広告

間も無く年度も変わる今日この頃、そんな時に欲しくなるだろうと思う名刺をワークスでは、テンプレート名刺で用意しております。それに伴い名刺ページも新しくなります。今回の HP は、前回のページとは大きくガラッと変わったページになっていますので、一見の価値が有ります。是非ともご期待下さい。テンプレート名刺ページは <http://www.mediawars.ne.jp/~saba/> から御覧頂きます。

名刺作成部長
八木 太郎

ワークス共同作業所

〒601-8036
京都市南区東九条松田町62
TEL 075-682-3201
FAX 075-682-3330
HP <http://www.mediawars.ne.jp/~saba/>
e-mail saba@mediawars.ne.jp

名刺作成部長
名刺 太郎
ワークス共同作業所
〒601-8036 京都市南区東九条松田町62
電話 075-682-3201 Fax 075-682-3330

八木
太郎

〒601-8036
京都市南区東九条松田町62
TEL:075-682-3201
FAX:075-682-3330

NAKAJIMA'S EYES

人間には人生の底辺ともいうべきもの、絶望的で最も暗く、最も冷たい、何も存在することのできない「死」という避けがたいものがある。この世に生まれた時から、それは解っていること。「生と死」その間の有限帯（限られた時間帯）、それが人生。だから人生を考えると、その底辺に一本の線を引かなければなりません。

「死」という一本の線を……………。

それを土台にして、人生を組み立てていかなければなりません。

「死の認識」、それが生きていることを充実させる。

人間は「死」を恐れる。なぜだろう？死ぬことが解っているから、なおさら「生」に執着する。「生への執着」は「死への恐怖」に変わる。「死への恐怖」は「永遠に生きるものへの憧れ」に変わる。

「永遠に生きるもの」とは何か？「生き甲斐」とは何か？「人生」とは何か？「愛」とは何か？

若い頃、寝ずに考えた。結局結論はでなかった。

「何かをしようとしている処に人間の価値はある」ということぐらいしか解らない。

「愛（友愛や恋愛も）」とは、自分に無いものを「他の人」に求める「心の動き」だと解釈した。

才能のある人は、発明や発見や作品（小説・詩篇等）に転化して、「永遠に生きるもの」として後世に残した。凡人の私には何も残せないだろうなあと思う。

このごろ、若い時の人生の組み立て方に失敗したような気がしてならない。

小、中学校 {「いじめ」が酷（ひど）かったなあ} で、もっと真面目に勉強すれば良かったと思う。全日制高校で思いっきり、勉強出来たかもしれない。苦勞（朝夕の新聞配達）は辛かった）して定時制高校へ行かなくて済んだかも知れない。大学へも行けたかも知れない。良い会社へ就職できたかも知れない。このアルバイトで余計に首を悪くしたかも知れない。「何々したかも知れない」ばかりだな、過ぎ去りし日々だが、その頃から私の人生は狂い始めたように思います。

去年 {2010年12月09日（木）}、昨日まで元気で一緒に働いていた仲間が、今日の朝に亡くなったという訃報をきく。人の命とは儚（はかな）いものだと再認識する。

自分はあと何年生きるのだろう。「儚い命」だからこそ、今この時を一生懸命に生きなければならない、と思い直す。

「死」が訪れるまで……………。



あ し あ と

- 12月02日(木) 一木市に出店、9:00~15:00
- 12月04日(土) 京都市ふくふくフェスタに出店
- 12月07日(火) バナナ寄贈
- 12月11日(土) 荒木正幸、告別式
- 12月19日(日) 藤森神社、手作り市
- 12月21日(火) バリアフリーファーム
- 12月28日(火) 仕事納め

————— 2011年(平成23年) —————

- 01月05日(水) 仕事始め
- 01月11日(火) 新年交流会(JCILの企画と合同)
- 01月16日(日) 藤森神社、雪、路面凍結のため中止
- 01月19日(水) ワークスの明日を考える会 京都テルサ(参加者 40人)
- 01月26日(水) 府身連PC講習会(綾部市初級編)、



1月19日、京都テルサにて「ワークスの明日を考える会」がありました。ワークスの明日、行く末を皆で考えていこう。障害のある人の「仕事」とは「はたらく」とは、どういう事なのか。私達の思いを実現できる制度は何なのか考える機会を持ちました。日本自立生活センターや自立支援事業所のスタッフも大勢参加しました。また当日、参加できないメンバーの中には「Skype」を使つての参加もありました。自宅にいながらカメラを通して会場の雰囲気そして会場の参加者は彼の顔が画面に写る事によって一体感が持てる「テクノロジーは障害を越える」を実感した一日でした。

「~会」の中身については後日、このBUG紙面でも報告していきます。

編集後記 今、ワークスでは必須のアイテムになっているのが「Skype」です。先日の「明日を考える会」でも使いましたが「Skype」がインターネットを使いテレビ電話(中継)のような事が簡単に安価にできてしまうことに驚きです。遠く離れた人やワークスに来ることが物理的に不可能な人も、そこにて普通に会話ができています。皆さんも「Skype」を使つてお話ししましょう。「ツイッター」のように勝手に呟くのではなく相手の顔を見てブツブツ言い合うのも面白いですよ。是非、ソフトをダウンロードしてWebカメラを繋いでさあスタートです。

<http://www.skype.com/intl/ja/home/> ←ここです

